

不規則外力 = ヨル強制振動

守野 利雄 (城大理工)

強制外力 $F(t)$ が働ク場合、振動ノ方程式

$$(1) \frac{d^2x}{dt^2} + 2\gamma \frac{dx}{dt} + (\gamma^2 + p^2)x = F(t)$$

ニ於テ、外力 $F(t)$ ハ殆ド週期的デハアルガソ、
週期ニ若干ノ動揺ガアリ、平均ノ値ノ前後ニ正
規分布ヲナス場合ヲ考ヘル。 $F(t)$ ガ完全ニ週期
的デアレバ $F(t) = A e^{iKt}$ 、如ク置クコトガ出来
ルガ、上記ノ様ナ場合ハ外力ヲ記述スル時間ノ
「あゆみ」ニブラウン運動型不規則性ガ加ハル
モノト考ヘ

$$(2) F(t) = A \exp\{iK(t + \xi(t))\}$$

トスレバヨシ。茲ニ $\xi(t)$ ハブラウン運動ヲ記
述スル彷徨函数、即チブラウン運動ヲスル点
ガ時先ニ於テ示セル位置ノ坐標ニ外ナラナイ。
而シテコレノ特徴ハ $\xi(t)$ ガ ξ_t $\xi_{t+d\xi_t}$ トノ
間ニアリ、同時ニ $S > t$ ナル S ニツキ $\xi(S)$ ガ ξ_t
ト ξ_S 間ニアル確率ガ二次元正規分
布

$$(3) \exp\left\{-\frac{\xi_t^2}{2\sigma^2 t} - \frac{(\xi_S - \xi_t)^2}{2\sigma^2(S-t)}\right\} d\xi_t d\xi_S$$

ニヨソテ与ヘラレル事デアル。茲ニ σ^2 ハ係数
デアリ、(3)ヨリ計算シテ $\{\xi(S) - \xi(t)\}^2$ 、期望値ガ
 $S-t$ ニ比例スル事ガ分ルガソ、際、比例ノ係
数ヲ示ス。即チ

$$(4) E\left\{\{\xi(S) - \xi(t)\}^2\right\} = \sigma^2(S-t)$$

(90)

デルタ。従って又最初 = 速ベクトル、週期、動揺性 = 於て、その標準偏差が $\frac{2\pi\sigma}{k}$ トナルが如き定数デルタ。

(1) 解ハ

$$x = \frac{1}{p} \int_0^t F(u) e^{-\alpha(t-u)} \sin p(t-u) du$$

ニヨツテ与ヘラレルガ、コレノ「スペクトル」ヲ下記ノ如キ方法ヲ計算シテ見ル。即チマツ、 x ノ自己相関 $x(t)x(t+S)$ ヲ作り、次ニコレノ期望値ヲ求メル。

$$(5) E[x(t)x(t+S)] = \frac{1}{p^2} \int_0^t du \int_0^{t+S} E[F(u)F(v)] e^{-\alpha(2t+S-u-v)} \sin p(t-u) \sin p(t+S-v) dudv$$

コレヲ計算シテ更ニソノ平均値

$$(6) \lim_{T \rightarrow 0} \frac{1}{T} \int_0^T E[x(t)x(t+S)] dt = \varphi(S)$$

ヲ取り、然レ後 $\varphi(S)$ ノフーリエ変換

$$(7) S(\nu) = \int_{-\infty}^{\infty} \varphi(S) e^{i\nu S} dS$$

ヲ求ムレバ $S(\nu) d\nu$ ガ振動数 ν ニ対スル「スペクトル」ノ密度ヲ示ス。

一マノ計算ハ煩雜ニナル、テ省略スルガ(3)

ト(2)トガヲ得ラレル

$$(8) E[F(u)F(v)] = \exp\left\{-iK(u-v) - \frac{\sigma^2 K^2}{2}|u-v|\right\}$$

ヲ(5)ニ代入シテ計算ヲ遂行スレバ、結局

$$(9) S(\nu) = A^2 \sigma^2 K^2 / 2 \left\{ n^2 + (p-\nu)^2 \right\} \left\{ n^2 + (p+\nu)^2 \right\} \left\{ \frac{\sigma^2 K^4}{4} + (K-\nu)^2 \right\}$$

ガ得ラレル。但シ $\sigma=0$ ノトキハ $\int_{-\infty}^{\infty} dS(\nu)$ ガ

$V = \omega$ = 於テノミ跳躍有スル階級函数トナル。(9)ニツイテ若干ノ解説ヲ試ミル。
 σ , ω 等ガ小テアルP及ビカ $\pm P$ ニ比シ省略シ得ル量テアルトスレバ $V = K$ ノ附近テハ(9)ハ大略

$$(10) S(K) \doteq \frac{2A^2}{(P^2 K^2)^2 \sigma^2 K^2}$$

$V = \pm P$ ノ附近テハ

$$(11) S(\pm P) \doteq \frac{A^2 \sigma^2 K^2}{4P^2 (K \mp P)^2 2\pi^2}$$

トナリ、且ソレゾレガ本末 $S(V)$ ノ極大ノ位置ヲ与ヘル。(10)ト(11)トヲ比較スルニ σ ガ ω ニ比シ小ナルトキハ $S(\pm P)$ ハ $S(K)$ ニ比シ小(特ニ $\sigma = 0$ トナレバ前者ハ皆無)ノガ ω ニ比シ大ナルトキハソノ反対ニナル。

即チ週期=絶対=動搖ガ無ケレバ外カト同一週期ノ振動ノミガアラハレ、固有振動ハ屬起サレナイガ、コレニ動搖ガアレバ固有振動ガ屬起サレ、且ソノ動搖ノ大ナル程大キフ現レル事ガ分ル。

統計数理研究所消息

- 4月7日 日曜日、晴 日本数学会発起人会
に河田、小川所員出席。
- 4月11日 木曜日 曇
午後1時より公開講演、
兼任所員 佐藤良一郎 J. Neyman :
Basic Ideas and Some Recent
Results of the Theory of Testing
Statistical Hypotheses 55頁?
- 4月12日 金曜日 晴
午後1時より公開講演
前日の続き
- 4月26日 金曜日 曇
午後2時より所員国沢清典、談話
On a remark concerning A. Kolmogorov
law of iterated logarithm.
- 4月27日 土曜日、晴
午後1時より講究會
所員河田龍夫；函数のFourier-Stieltjes
積分による表示(Ⅱ)。
助手田中祐輔；Tamarkin, Hille,
"Remarks on a known example
of a monotone continuous function"
の紹介。